

会 議 録 (要 旨)	
会議の名称	令和6年度第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会
開催年月日	令和6年12月25日(水)
開始・終了時刻	開始：午後1時45分、終了：午後3時30分
開催場所	高岡の森弘前藩歴史館 映像・講話室
議長等の氏名	瀧本 壽史 委員長
出席者	委員長 瀧本 壽史 副委員長 島内 智秋 委員 小山 伸吉 委員 葛西 修造 委員 神 怜奈 委員 棟方 貴文 委員 島田 しのぶ
欠席者	無し
事務局職員 の職氏名	高岡の森弘前藩歴史館長 熊谷 義昭 参事兼館長補佐 鎌田 春香 主幹兼運営係長 相澤 智香子 総括主査兼学芸員 澁谷 悠子
会議の議題	(1) 令和5年度事業報告 (2) 令和6年度事業計画並びに経過報告 (3) 令和7年度事業計画
会議結果	下記会議内容に記載のとおり
会議資料の名称	令和6年度第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会資料
会議内容(要旨) (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	【案件1意見】 委員：春に高照神社で宵宮のイベントを町会と主催団体とで協力して行ったところ、大変大勢の人が来てくれた。このような催し物があるときに歴史館のような施設があるということをチラシなどに載せてもらいPRするのがよいのではないか。インターネットなどで調べてくる人もいて、ここにこのような施設があるということを浸透させていくというのが必要であると思う。せっかく人が来ているのだから活用するのがよいと思う。ただ、それが行政的には難しいのかという壁を感じた。安全管理や駐車場の確保ということでも計画書などを作成させるので、来年の4月の開催に協力をいただきたい。 事務局：今の案件については歴史館としてやれることやれないことが当然あるので、それを整理した上で、話を伺いたい。去年は急な話だったため、対応が難しかったが、今年もやるということであれば事前にお話を伺ってすり合わせが可能か判断したい。 委員：岩木山の事業を長くやっているが、エコ活動についてイラストやポスター周知で、家族参加が何組か来て、それがまた友達を呼んでという形で人が集まるようになった。歴史館主催の流鏝馬イベントはまだ周知が十分でないように感じる。来場者数を増やすにはネットも使い、チラシなど説明的なものが必要ではないか？

	議長:地域の学校としてそのあたりの意見はどうか。 委員:観光協会のホームページを見ていて、エコプロジェクトの活動と学校PTAのゴミ拾い活動でマッチングができれば、と思ったが日程や活動主体を考えると難しい。情報のやり取りや学校活動としての主体の問題を解消して学校や両者の着地点を見つけていく必要があると感じた。 議長:せっかくこういう場面なので、直接話をして少しずつ積み重ねて情報共有して協力していければ相乗効果を生み出すのではないかなと思う。 議長:次に目標入館者数 7000 人の根拠は？ 事務局:これまでの入館者数の推移として、開館時 2 万 900 人、その翌年 1 万 4000 人。令和 2 年から、7000 人弱から 6000 人台ぐらいになり、コロナ明けて 5000 人台ということで、コロナ前の 7000 人に近づけていない状況なので、今後の目標としてそこに近づけたいと考えている。 議長:開館時はイベント参加者や特別利用件数などは多く無かったとは思いますが、いわゆる入館者だけでなく歴史館を活用した方も利用者として、数に含んでアピールしてもよいのではないかな。 事務局:資料 1 ページ目に示す通り講座やイベントの参加や特別利用などを含めると、6273 人になっており、入館者だけでなく活用した方も利用者として目標値の設定を検討していきたい。 議長:講座やイベント等にも相応の労力がかかっているのも、幅広く利用者としてもとらえて支障はないと思う。ほかに、3 ページのその他の、緊急かつ不可欠な施設管理関連費増大と記載されているものについてはどのようなものか。 事務局:施設も経年により展示・収蔵空間を適切に維持するための空調設備などに不具合が出始めており、修繕が必要となった。イベントなどで集客することも必要ではあるが、建物の維持、資料の保護を優先させることに力を入れた結果このような表現となっている。 委員:経過年数によるものであれば、別途要求するのが本来の筋であると思われるが？ 事務局:年度途中の急な不具合で想定外であった。業者によると、不調が出るには少し早いかなと思うが、使用状況などでこのような状況にもなりえるとのことだったので、今年度からは予算化の必要があると判断し財政部局に要求することとした。令和 5 年度については急なことであったので、やむを得ず既決予算の中で対応したため、結果的に、コンサートなど他のイベントの実施ができなくなったということである。 議長:ロビーコンサートなどにそんなに予算がかかるのか？ 事務局:金額自体はそれほど高額ではないが、維持管理に係る金額を捻出するために、ほかの予算からもかき集める必要があることから、イベント等の予算はすべてそちらに回したという、5 年度の状況であった。
--	--

【案件 2 意見】

委員：9 頁に記載の歴史館講座「高照神社を守り継いだ人々」に関連して発言したい。高照神社は地元の高岡集落の我々が先祖代々約 300 年間にわたって守り継いできたという経緯がある。宝物がここにあるよ、ということを地元の者が来館者に直接伝える機会を設けて欲しい。講座で現地の話を聞いてもらえれば繋がっていくということもあったのではないかと思う。実際に見聞きし、興味を持ってもらう方が、来館者も来館回数も増えるのではないか。神社に来る人は神社を心配してくれている人もいますので、そういった人たちとつながる機会の設定がもう少しあればと思う。

委員：学校の団体の解説や歴史館講座の前に、地元の方にこの地域についてお話いただければ、毎回その話を聞く人が増え、そういう場所だと認識し、理解が深まるのではないかと思う。興味のある参加者には、集落のことも合わせて知ってもらえると、そこから支援する人も広がるはずで、まずやってみればどうかと思う。学校の解説対応の人数も入館者数に含まれているということであれば話もセットで聞くことになり、良いのではないか。

議長：高照神社はここを守り継いだ高岡集落ありきの神社である。鳥居から始まるのではなく、鳥居に至る参道に面する高岡集落が、300 年ずっと守り続けてきた歴史文化があるということをふくめ、連携していくという方法を探るのもよいかと思うがどうか。

事務局：各学校の見学時、高照神社と歴史館の展示の説明を併せて求められることが多いため、神社から高岡の集落方向にむかい、「神社と宝物を守り継いできた方々がいて、その宝物が今は歴史館で皆さんに見てもらえるようになった」ということを説明している。今のお話は町会の方々が学芸員の説明の前にお話しいただくというご提案であったかと思うが、小中学校の見学のスケジュールは、農繁期に重なる部分が多いので、実施するとなると調整が必要になると思われる。

委員：高照神社、宝物、この集落そのものを生きたストーリーとして語ってほしい。

委員：この建物ができる前の宝物の保管状態は決してよくはなかったが、希望者には歴史なども説明し案内もしていた。集落や高照神社、歴史館の関係を自然な形で説明するにはガイドが必要。資料を渡すだけでなく、俯瞰で全体を難しくなく歴史的な伝統行事なども含め語り伝えることができる人がいるということが最も大事だと思う。

委員：伝える人によると思う。ガイドでなくても地元の方がこれまで努力してつないできたことなどを短くでも語ってもらい、イヤホンガイドのように順路に沿って、来た人たちがそれぞれスタートボタン押して見ることができるような仕組みの動画などにするのもよいのでは。語りの

	実物を見て聞いてというのは伝わるものが違ってくる。神社の運営検討委員会で作ると代々語り継がれるものが出来上がってくるのではないかな。 委員：ガイドは必要だと思う。中泊の宮越邸で地元の方が小さなグループ単位でガイドをしてくれたのが、わかりやすく良かった。歴史館は展示を見ればわかるようになっているのだろうが、観覧者のニーズに合わせたガイドが必要だと思う。また、外国の方への案内などには何かあるかな？ 事務局：当館のパンフレットも展示の説明も基本的には日本語のみの表記になっており、英語での音声ガイド等を提供するという形では対応できていない。 委員：外国の方が来られる機会も増えてきて、案内する機会もあったりするが、きちんとした説明が難しい。刀剣、甲冑、武士に興味がある外国人は多いので、歴史館の展示を紹介したいが、現状では実際には難しいと感じる。外国から来られる方を取り込む工夫をすれば、入館者数も増えるのではないかな。 議長：入館者の内数として外国人の入館者数は把握しているかな？ 事務局：年間でおおよそ 20 名程度かと思われるが、確認の仕方が難しいという理由から正確な数を把握はしていない。 委員：外国人へのPRはSNSなどが有効であると思われる。地域協力隊等若い世代への協力を求めるのは有効ではないかと思う。 委員：流鏑馬や刀剣についての動画記録があると思うが、編集などして発信すれば、外国人だけでなく魅力を伝えられる。観光協会のHPからも発信できる。 議長：情報の発信の仕方を工夫して、業務委託や様々な方法で文化財関係全般を発信する形をとることが今後考えられるのではないかなと思う。 議長：刀剣保護プロジェクトの参加者数の増加について。 事務局：刀剣の企画展を春のさくらまつりの時期に行ったことにより、県外の方などにも認知されたと思う。刀剣講座については想定以上の人数であったため、今後の開催については集合場所やアナウンスの方法を考慮し、アンケート結果など参考に満足度を上げていく方法を考えたい。 議長：状況を把握することで、二部制にする、回数を増やすなど様々考えられる。 委員：事前の申告や人数の把握などで安全面へ配慮することにより、手入れの仕方など、講座の内容が様々な方向からの見せ方の工夫がされ、動画の作製などいい方向に進めていける可能性がある。 委員：いいマイクやアンプなどの機材もあるので、聞こえやすさや見せ方にも配慮すると講座としてもよいのではないかな。
--	---

	事務局：講座参加を楽しみたい方や、それ以外の方にも配慮が行き届いたやり方を模索していきたい。 議長：他の博物館にない宝物や刀剣、地域性といったことをアピールしていくと一般の方々にもより浸透していけると思う。 【案件3意見】 委員：博物館法改正に伴う登録博物館の申請に関して、資料整理や撮影作業のための休館期間が必要となるということだが、その期間に弘前市立博物館から学芸員を短期的に派遣してもらう形で業務支援などではないか。 事務局：博物館の学芸員もそれぞれ展覧会を複数担当していること、その他の学芸業務内容が各館で違うことから、学芸員の派遣が直接作業効率の向上にはつながらない現状である。 委員：登録博物館の申請に関する業務だけの限定でもか。 事務局：この業務は歴史館だけではなく、博物館においても同様にあるので、双方に作業が発生している。 委員：有資格者のパート雇用はできないのか。 事務局：学芸員は専門職であり、数も少ないことから臨時的な雇用での募集に応じることはなかなかない。 委員：博物館実習に来る学生に手伝いを求めるのはどうか。 事務局：学生実習については通常業務でできないような計測なども行っている。双方にとって限られた時間ではあるが、充実したものとなっている実感があるが、実習の時間だけでは十分ではない。 議長：博物館の仕事の種類の一つとしての資料整理のやり方は様々あると思うが、工夫してすすめていただきたい。20日間の休館は令和9年まで続くことになるのか。 事務局：申請のための作業は、来年度の休館期間だけでなく令和9年まで要してようやく完了かと思われる。その間にも寄贈等があればまた作業も増えていくことになる。 議長：4回の企画展のうち1回をコレクション展にするというのは歴史館のあり方として大変いい変更だと思われる。 委員：来年度の刀剣の企画展について、これまでと違う雰囲気や歴史などの切り口が変わるような講座の企画への協力を考えている。2回目、3回目の人も楽しめるのではないかと思います。 委員：刀剣はいろいろな分野にかかわる形で愛好家が多い。流鏑馬や、漫画やアニメ、ゲームなどいろいろなところにファンになるきっかけがあるのでそれをつなげるような宣伝が行えればよい。 議長：たくさんの意見をいただいたが、学校としてはどうか。 委員：私個人として、周知方法が大事であると感じた。インスタなどで20秒程度のものをどんどん発信していくことが必要。歴史館でのインス
--	---

	タの活用はどうか？ 事務局：現在はインスタ等 SNS はやっておらず、市のホームページからリンクしてブログで定期的に情報を発信しているが、遅れている感はない。 委員：市のホームページからというのはかなりの足かせ状態であるので、もっと斬新にやるべきで、自分の学校でもそのように思う。 可能であれば、予算の関係もあるかとは思いますが、外注をしてでも良いものを作り、わくわくした気持ちを伝えるような動画の作製が必要だと思う。また、休館期間の時期は、やはり一番入館者数が少ない時期なのか？ 事務局：過去のデータを参照すると雪の多い時期が入館者数が少ないことから、この時期とした。 委員：足を運びにくい時期であるということでした。 委員：高照神社運営検討委員会で、社殿修理のために２月から具体的な活動を行う予定。周知について７年度も併せて行っていきたい。 議長：各委員の所属先での意見などを共有し活用できるいい機会であったと思う。本日の意見をもとに、集落あつての神社、神社あつての歴史館であるということも改めて認識し、地域の情報発信の共有や地元に着しながら活動を進めていただければと思う。（了）
--	--